

2018年12月7日
在リオデジャネイロ日本国総領事館

リオ州の治安情報

『シャペウ・マンゲイラ（スラム街）』における外国人観光客の流れ弾被害（6日）

6日昼頃、リオ市南部レーメ地区の『シャペウ・マンゲイラ (Chapéu Mangueira)』において、オランダ人観光客（56歳）が娘と共に『Bar do David』にて昼食をとっていたところ、麻薬密売組織がリオ州軍警察のUPP（平和構築部隊）に向けて発砲した流れ弾を受けて負傷、同観光客のほか、リオ州軍警察官1名が顔面に銃撃を受けて負傷した模様です。

【当館から】

リオ市南部レーメ地区の『バビロニア (Babilônia)』及び『シャペウ・マンゲイラ』の両スラム街においては、依然として、警察の掃討作戦が断続的に実施されるなど、緊張状態が継続しております。『シャペウ・マンゲイラ』には観光客に人気のあるレストラン等が多数ありますが、両スラム街周辺への観光や通行を控えて下さい。